

# ぼくはうみがみたく なりました

ひとりの自閉症の青年とその周囲の  
人々が織りなす、心温まる青春映画

2013年7月15日(月・祝)

開場 13時30分 開演 14時

小牧市南部コミュニティセンター  
(ふらつとみなみ)

入場無料  
申込み先着順

定員80名 小牧市大字北外山 1187

自閉症の青年と、少し人生行き詰まり気味の看護学生が、偶然から海へ向かう旅にでてしまい、そこで様々な人とめぐりあうハートウォーミングな物語。ひとりの自閉症の青年を取り巻く人々の人生や心の成長を、時にユーモラスに、時に厳しく、そして温かく描き出します。映画を観た後には、きっとあなたも、ふんわり温かい気持ちになれると思います。キャスト：大塚ちひろ、伊藤祐貴、秋野太作、大森暁美 ほか

公式サイト：<http://bokuumi.com/>

字幕付

主催(問合先・申込み)

ここばりこまき

090-1780-9032(平手)

氏名、参加人数、連絡先をお知らせください。(メールFAX可)

mail@kokobari-komaki.net

Fax 052-308-3834



## ストーリー：

浮かない顔をした看護学生の明日美(大塚ちひろ)は、高校時代に好意を寄せていた男子生徒に似ている青年・淳一(伊藤祐貴)と出会う。淳一に声を掛け車の助手席に乗せて海に向かうことにした明日美は、かみ合わない会話やおかしな行動に戸惑いながらも、淳一が自閉症だということは気付かずにいた。



原作：「ぼくはうみがみたくになりました」(山下久仁明 著) ぶどう社 1,680 円



「ぼくみ」を書いたのは、自閉症児の父親である脚本家として、自閉症を描いた作品を映画にしてみたかったからです。原作として小説を書き、いずれは映像化……とずっと思っていました。そして実際、2006年に入った頃から、映画化に向けての取り組みをはじめました。ところが、3月28日のことでした。地域の中学校の障害児学級を卒業し、4月からは養護学校の高等部に入學するはずだった長男・大輝(ひろき)が散歩の途中にJRの線路に入ってしまう、電車に接触して命を落としてしまいました。15歳でいなくなってしまう大輝は、どちらかという重い方のタイプの自閉症でした。私は今、大輝が「15年間ありがとう。いっぱい世話をかけたけど、これからはもういいから、ボクのために映画をつくってよ」と背中を押してくれていると信じ、映画を作りました。(ぶどう社サイトから)

## 自閉症とは

生まれつき脳の機能に何らかの障害を持つ発達障害のひとつだと言われています。人や物との変わった関わり方をしたり、大人や同年代の子どもとのコミュニケーションがうまくとれなかったり、興味や関心が非常に偏っており、同じことを繰り返したがる特徴をもっています。知的な障害を伴わない人もいますなど、その症例は多彩で、一般の人から重度自閉症の人まで境目なく虹のように連なるため、自閉症スペクトラム(自閉症候群)といわれます。重度の人であっても成長にあわせて、適切な支援を受けることにより、地域でともに暮らしていくことができます。

### ●● ここばりこまきの活動について ●●

しょうがいのある人が暮らすのに、4つのバリア(じやまになるカベ)があるといわれています。物理的なバリア、制度のバリア、情報のバリア、そして、ここ3のバリアです。

ここ3のバリアは、知らないこと、無関心であることから生まれます。そこで、私たちは、しょうがいのある人のことを知ることからはじめて、だれもがかけがえのない存在として大切にされるまちづくりをめざして活動しています。

今回のような映画の上映会のほか、ここ3のバリアフリーをテーマにした学習会や講演会、バリアフリーコンサートの開催等を行っていますので、ぜひ、気軽に参加してください。



ここばりちゃん

## 【会場アクセス】

〒485-0023

愛知県小牧市大字北外山 1187

### 【アクセス方法】

電車：名鉄小牧線 間内駅より北へ  
徒歩5分

こまき巡回バス⑥春日寺・市之久  
田コース

「南部コミュニティーセンター  
前」下車すぐ

